



みんなの声で社会を“プラス”に変える

みんなでプラス「性暴力を考える」に寄せられた声を基にNスペを制作

「みんなでプラス」は、これからの社会を考える上で避けて通れないテーマについて、継続的に情報発信し、課題解決につなげていくため2019年度に立ち上がったサイトです。皆さんから寄せられた声を取材につなげ、一人ひとりが声を上げれば世の中は変われると思える社会の実現を目指しています。関心のあるテーマの記事のコメント欄に、体験談や質問、感想などをお寄せいただいています。



最近では、4月15日の記事「性暴力」裁判 被害女性が語った15分のことば」が大きな反響を呼びました。

<https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0026/topic054.html>

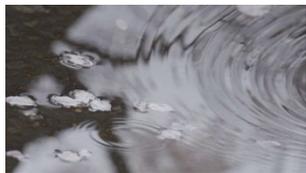


「性暴力を考える」プロジェクトは、性暴力をめぐる裁判で無罪判決が相次いだ2019年春に立ち上げました。寄せられる、被害者や家族からの多くの声と対話しながら、毎週、被害の事例や心身への影響、対処法、相談窓口、性教育、国の対策、法改正の動きなど性暴力関連の独自記事を掲載し（現在170本）、番組（クローズアップ現代8本など）やオンラインディスカッションなどで継続発信しています。<https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0026/>



性暴力 “わたし” を生きるために(仮)

<放送予定> 6月19日(日) 午後9:00~9:49



「性暴力を考える」プロジェクトには、相談窓口や支援とつながれず、1人取り残された被害者から「被害の実態を知ってほしい」という声が毎日のように届きます。私たちはその一つ一つと対話しながら、番組やデジタルで発信を続けてきました。

多くの声が教えてくれたのは、被害者は被害そのものだけでなく“その後”も長い間心身の不調に苦しみ続けるという現実。そしてその大きな要因は、家族・友人などの身近な存在からかけられる何気ないことばや、社会の無知・偏見にあるということ。被害者は口々に「わたしを失った」と語るように、当たり前にあった日常生活を奪われ、社会と断絶し、“わたし”という1人の人間として生きていけなくなり、自死を選ぶ人もいます。さらに被害者の“その後”の苦しみは、パートナーや親などの家族をも巻き込んでいきます。

どうすれば被害者が再び“わたし”を生きることができるのか。実態調査アンケートに寄せられた38,000を超える回答とともに、“わたしたち”の社会に何ができるか考えます。